

特集 [新春特別企画] P4~P7

子供たちに安心できる  
食生活を。



Yamagata Original Cooking 地産地食 Chisan Chisyoku

旬の  
食材で

プロが作る  
オリジナル料理 ⑩

【佐藤貞次】

昭和54年に「料亭の、村」に入社し、その後、東京銀座の武蔵野、日本開発銀行乃木坂倶楽部などで腕を磨いて平成2年、「料亭の、村」の料理長に就任、現在に至る。「料亭の、村」は明治6年創業の山形を代表する老舗料亭。歴史と伝統に裏打ちされた、本格的な日本料理が楽しめる。ご利用は昼夜ともに予約制。お料理は会席料理のコースが基本で、少人数でのお食事から法要、お見合い、結婚、商談、宴会と幅広く利用できる。山形市七日町4-1-6、電話023-641-0515、不定休。



【赤根ほうれんそう】

今回の食材は「赤根ほうれんそう」。山形の在来品種で、旬は晩秋から冬。最近全国的に名前が知られるようになりました。根が赤くて太く、甘味が強いのが特徴。ぜひ根の部分も食べてください！

●材料

- 赤根ほうれんそう…2袋
- 豚バラ肉（スライス）…600g
- ポン酢醤油…適量
- 小ネギまたは長ネギ…適量
- もみじおろし…適量
- 中華めん…2玉
- 塩、コショウ…適量

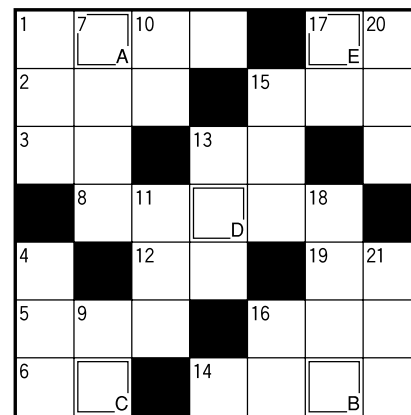
●作り方

- ①ほうれんそうは根の部分を取り取って十字に切れ目を入れ、よく水洗いした後2等分の長さで切って大皿に盛りつける。その上に豚バラ肉を盛り付ける。
- ②水を張った鍋に塩小さじ1を入れ、火にかけて沸騰したら豚肉と赤根ほうれんそうを食べる分だけ入れ、火が通ったら薬味（もみじおろしとネギ）を入れたポン酢醤油で食べる。
- ③ひと通り豚肉とほうれんそうを楽しんだら、残り汁に塩、コショウで味付けをし、別の鍋で中華めんを固めにゆでてざっとごま油を絡めておく。
- ④③の味付した汁を温め、中華めんを入れて食べるととても美味。美味しい塩ラーメンが味わえます。



【山形・赤根ほうれんそうの豚しゃぶと】  
美味しい簡単ラーメン

●プロの調理人に「山形の旬の食材」を使ってオリジナル料理を作ってもらった企画です。この紙面で発表された料理は、お店のメニューに加わる事もあります。ご期待ください。



パズル？ 頭の体操 出題●ニコリ 正解者には抽選でプレゼント！詳しくはP15へ。

👇 タテのカギ

- 1 本州と橋で結ばれたルートは3つあります
- 4 成人式を迎える年齢
- 7 おなかでこなれること
- 9 スミを吐いて逃げる動物
- 10 子どもが使う真ん丸い遊び道具
- 11 独特なニオイがある魚の干物
- 13 お風呂のあとの風邪をひく原因
- 15 境内や公園によくいる鳥
- 16 風 千鳥 砂
- 17 海の上に出ている部分
- 18 浦島太郎を竜宮城に連れて行った動物
- 20 夜勤に備えてちょっと一休み
- 21 土俵の上で勝負します

👉 ヨコのカギ

- 1 新年に演じられることの多い芸能
- 2 薄い紙などを材料に作る細いひも
- 3 中 港 路
- 5 雪道ではチェーンを巻きましよう
- 6 駅の近くは高めの場合が多い
- 8 サイコロの形をした甘いもの
- 12 人を襲うような怖い種類ばかりではありません
- 13 豆乳から作る薄い食品
- 14 一人前ずつ炊いて、炊いた器ごと出す料理
- 15 殿様の食事を事前に食べてみる
- 16 日本全国どこに行くのも50円
- 17 自然を観察したり実験したりする科目
- 19 1000分の1を表す言葉 —グラム— —メートル—





# 新年のごあいさつ

山形農業協同組合  
組合長理事 遠藤 芳雄

新年あけましておめでとうございます。  
輝かしい平成21年を迎え、組合員の皆様をはじめご家族の皆様にはお健やかに過ごしのことと拝察し、心よりお慶び申し上げます。

新春にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。  
常日頃よりJA事業につきましては、組合員の皆様より大変厳しい農業情勢の中、多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成20年は前半から原油の高騰等により社会経済が大変混乱いたしました。ガソリンをはじめとする燃料は8月には過去最高価格に高止まりし、生活および農業生産コストにおいて大きな負担となりました。また、生産資材では原料製造のコストが最も大きい肥料が影響を受け、価格は前年比14倍を超える状況にもなりました。

JAといたしましては、組合員の皆様の需要に的確に 대응べく、予約運動を進めJAグループを挙げて、JAのオリジナル肥料を中心に価格メリットを付加した供給対策を行って参りました。飼料、農業機械を含めた資材の高騰は農産物生産の減退につながり、ひいては食料自給率の低下に大きく影響いたしますので、国内農産物の再生産が維持できるようにと、8月に消費者の方々からも賛同をいただき、国、県および市町に対し「食農・くらしの危機突破」にむけて力をあわせて訴えて参りました。

また、低迷する農産物価格対策といたしましては、安全な食の提供と消費宣伝の強化を行い、次世代対策といましては、食育の体制充実と、地域および消費地との結びつきを重視して参りました。

9月に入り、好調であった金融経済はこれまで燦っていた米国サブプライムローン問題が顕在化し、危機的状況に一気に変化して参りました。世界の余剰オイルマネーと利潤を追求する投機的で複雑な金融商品が台頭し、

これらが絡み合って成り立ってきた米国中心の金融システムが崩壊するという歴史的な危機を目の当たりにしています。こうした金融資産の暴落は全世界を席卷して、戦後最大規模の経済不況をむかえるのではとの不安が漂っています。

JAおよびJAグループといたしましては、これらの厳しい状況に対処すべく、金融ではJAバンク体制強化のため県信連を農林中金に統合、さらに全農体制では農産物販売力強化のため、念願であった全農庄内との統合により全国有数の県本部体制を実現いたしました。「JAやまがた」がこうしたJAの体制作りのリーダーとして役割を果たせたことについて意義は大きいものと考えておりますし、組合員の皆様方の温かいご支援があればこそと、改めて感謝を申し上げます。

昨年開催された第11回通常総代会において、「JAやまがた行動総合五ヵ年計画」をご承認いただきました。この計画は5年後のJAやまがたのあるべき姿を中期的な視野に立ち、農業情勢の変化に対応できる体制づくりの目標を掲げております。経済危機のこの時期、行動総合計画を道標とし、皆様との「グッドコミュニケーション」を基本に、新年においても役員一同、事業および体制改善に対処して参ります。

新年の干支は「丑」であります。「総称山形牛」は我がJAにとつてかわりの深い動物であります。これまでスピードと効率一辺倒であった社会経済の歪に反省が求められております。

過去の丑年は金融経済が混乱した年が多く、12年前の平成9年は1990年代以降のバブル崩壊で、不良債権問題が発生し、銀行、証券、保険の金融企業でも経営が行き詰まった年でありましたが、あの困難な時期をも乗り越えて今日にいたっております。

「牛の歩みも千里」と喻えられますが、怠りなく努力して牛歩といえども信念をもって着実な成果をあげて行くことを念頭におき、事業に取り組む所存でございます。

本年の農作物豊作、そして皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

平成21年元旦

## 迎春

組合長理事	遠藤 芳雄
代表理事専務	長澤 豊
代表理事常務	佐藤 浩
常務理事	山川 昭
理事	田中 弘
理事	小林 政
理事	小谷 重
理事	渋谷 馨
理事	遠藤 健一
理事	宮部 勝一
理事	塩野 幸人
理事	高瀬 八人
理事	石黒 傳
理事	堀井 忠
理事	新井 正
理事	遠藤 庄
理事	寛廣

理事	尾形 昭一
理事	江口 勤四郎
理事	吉田 忠幸
理事	岡崎 政志
理事	渡邊 富男
理事	板垣 平治郎
理事	北澤 久敏
理事	渡辺 新一
理事	岡崎 輝明
理事	板垣 政行
理事	城戸 正美
理事	渡辺 作十郎
理事	秋葉 真作
理事	佐藤 益治
代表理事	菊地 義弘
常勤監事	佐藤 栄助
監事	鈴木 芳弘
監事	鈴木 澄夫
監事	鈴木 澄夫
監事	武田 寛一
監事	山口 富哉
員外監事	古内 佑司
参事	安達 正志

(職員一同)





# 子供たちに安心出来る食生活を。

本誌新年号の恒例企画となっている「新春特別対談」。

2009年は、組合員さんの若手ホープである

青年部部长・鈴木伝勇さんと、山形市立第一小学校

教諭・齋藤良枝さんのお二人にお願いしました。

「ご名前は昨年、山形一小の3年生が取り組んだ

「中庭でのお米作り」に、アドバイザーと

学級担任という立場で関わってきました。

その1年間にわたる交流を通して、

どんな発見やドラマがあり、成果があったのか、

お二人に語っていただきました。

※対談は昨年12月中旬に収録



山形市立第一小学校教諭  
齋藤良枝さん

JAやまがた青年部部长  
鈴木伝勇さん

## 小学校の中庭に田んぼが出現。

——それではまず最初に、どういう経緯で山形一小の中庭でお米作りをするようになったのか、齋藤先生からお話いただけますか。  
齋藤 はい、ではできるだけ簡潔に説明したいと思います。なぜ今年、3年生が中庭にミニミニ田んぼを作ってお米作りに取り組んだかと申しますと、まず山形一小の立地というのがあります。ご存じのように山形一小は山形市の中心市街地にあり、学区内には田畑はもちろん草の生えている空地さえほとんどないような環境です。だから子どもたちが、農作物の育つ様子を身近に見る機会がほとんどなくて、また学

校の授業の中で作物を育てるにしても、学校にはほんのちよっとの畑しかありません。私は前任校の作谷沢小学校で「食農教育」に関わる機会がありました。子どもたちは目を輝かせ、生き生きとして土と交わり、作物とかわるのです。そこでこの山形の大会の山形一小でも子どもたちにぜひ食農に関する体験をさせたいと思っていました。それで1年の時はポップコーン用のとうもろこしを育て金曜朝市で販売し、2年の時にはサツマイモとミニトマトを育て、3年生の今年、ちょうどJAやまがたさんからお声をかけていただき、これはまさしく



私が求めていたものだ」と、すぐにお願した次第でした(笑)。——それに鈴木さんが協力したということですね。この計画は、具体的に何月からどういう形でスタートしたのですか？

鈴木 まず3月初めころにJAから、「山形一小の中庭に田んぼを作らせてもらう話になっているんだけど、青年部で協力してくれるか」と話があり、「じゃあやってみるか」ということで始まりました。それで普通は学校の稲作りというと「バケツ稲」でやるんですが、今回は齋藤先生から「子どもたちが実際に田んぼに足で入れるような形でやれないか」とお話があったもので、コンクリートで打つ時の型枠のようなものを青年部メンバーでつくり、そこに私の田んぼから持っていった土を入れて田んぼを作りました。大きさは



ちょうど1坪くらいです。そこに5月に田植えをし、10月に稲刈りをしてという形です。  
——鈴木さんは学校へは何回くらい行って指導されたのですか。  
鈴木 子どもたちと一緒にやってやったのは田んぼ作りの時と田植えの時と、収穫時の3回。あとは自分でもやっぱり生育状態とか水の案配とか気になるもので、ちょこちょこ学校に行っ様子見をしていました。学校に行っ回数は一ターナルで7〜8回になると思います。他には何かあれば先生から電話で問い合わせがあつて、それに答えるという形でした。  
——1坪の田んぼに苗は何株植えたのですか。  
鈴木 50株くらいでしたかね。  
齋藤 そうですね。子どもたち全員、一株ずつは植えましたから、そのくらいですね。みんなで植えてみんなで稲刈りしたんです。





刈り取った稲は今どうなっているんですか。

鈴木 いま乾燥させているところで、12月17日に脱穀する予定です。

齋藤 育てたお米は「ヒメノモチ」というモチ米なのですが、収穫したそのモチ

## 米作り体験は、「食べ物は大事にしなくちゃ」って いう思いを実感する大きな力になったと思います。

米を使って年明けに収穫祭をしたいと思っています。子どもたちで育てた分だけでは足りないので、同じモチ米を少し買って増量してですけど(笑)。この米作り計画をスタートした時から、子どもたちとは「お米ができたら餅つきしようね」って話をしていたので、楽しみにして米作りをしてきたのですが、正直言いますと収穫するまではちゃんとお米が実るのか、すごく不安でした。というのは以前、私が別の小学校に勤務していた時にプランターで稲作りをしまして、そ

鈴木 私も先生と同じですが、やっぱり米というものは農家が1年間、本当に手を掛け、一生懸命に世話して作っているんだということ。その大変さを知ってもらいたいというのはありますね。だから粗末にせず、美味しく食べてもらいたいということかな。

あと、これは子どもにじゃなく一般消費者の方に言いたいことですけど、いま食料全般に偽装問題だとか事故米だとか、いろいろな問題や事件が起きています。でも私たちはそんなことは一切ないし、みんなが安全安心で美味しいお米を食べてもらうために一生懸命にがんばってる。そういう地元のお米をもっと食べてもらいたいと思うことですね。

——そういう話を伺うと、やはり地産地消の大切さというのを感じますね。地産地消なら、新鮮で美味しい農畜産物を、消費者は安い値段で購入できる。生産した人がすぐ近くにいたから、偽装だの何だのということはずありません。生産者と消費者の距離も近づいて相互理解や交流も深まるでしょう。悪いことは何一つありません。私たちの身体は、住んでいる土地の風土や環境と密接に関係していて、その土地でできる旬の作物を食べれば健康でいられる「身土不二」という言葉がありますが、まさにそれを実感しますね。

齋藤 本当にそうですね。旬のものは



# Suzuki Denyu

昭和53年、山形市落合町生まれ。千歳小学校、山形市立第四中学校、村山農業高等学校に学び、卒業後は一時会社勤めをした後、家業を継いで就農。主に米作とハウス野菜を中心に農業を営む。平成20年度はJAやまがた青年部長の役職に就き、リーダーとして活発な部活動をけん引。組合員の若手ホープ。



# Saito Yoshie

山形市立第四小学校を皮切りに山形、天童、山辺の各小学校に勤務し、平成18年から山形市立第一小学校に勤務。現在3年生の担任を務める。前任校の作谷沢小学校で「食農教育」に興味を持ち、教育関係の総合誌「食農教育」に実践レポートを発表。食農教育ネットワーク山形地域研究会運営委員。天童市生まれ。

## 子どもたちが目を輝かし、楽しそうに 田んぼに入っているのが、すごく嬉しかったです。

やはり一番美味しいはずだし安いはず(笑)。それと旬を大事にするというのは、食べ方でも保存の仕方でも、昔からの伝統的な食生活や食文化を守り伝えていくことにもつながるような気がします。これからはそういうことも子どもたちに教えていきたいですね。

あと最後に一言いわせていただければ、1年間かけてお米ができる過程というのは本当に大変なものがあって、その体

鈴木 それならわれわれ協力しますよ。俺自身も餅つきはやっぱ臼と杵でしたいんです。俺も餅つきって言えば小さい時から杵と臼でっていうのが当たり前だったし、実は去年、地元で新しくできた保育園でも臼と杵を使って餅つきやって、それが大好評だったんです。あと、米を蒸すのも、昔みたいにマキ焚いて窯でお湯を沸かして、それで米を蒸してというのでもできるんで、よかったら全面的に協力しますよ。ただグラウンドで火を使えないんだったらしょうがないですけど

齋藤 できればそうしたいと思ってるんですけど、まだ何も準備してないんです(笑)。

験を通して学んだ子どもたちは、安易に食べ物を残したり粗末にしたりしないんじゃないかな。だから「好き嫌いやめなさい」と百回口で言うよりも、実際自分たちが米を作った経験というものは、「食べ物は大事にしなくちゃ」っていう思いを持つ大きな力になったのかなと思います。

鈴木 俺はやっぱ、小さい時から田んぼに入って手伝ったり遊んだりしてきた



田んぼに入っているのが、すごく嬉しかったです。

でもそうやって餅つきしたら、子どもたちには忘れられない経験、思い出になると思いますよ。

齋藤 それはもうお願いできればありがたい限りです。なんか話が嬉しい方向に行って、すごくうれいんです。わくわくしてきますね。

——お話しているうちにまた新しい展開が生まれそうですが、ところで今回、学校にミニ田んぼを作り1年を通して米作りをされたわけですが、子どもたちはこの米作りを通して一番学んでほしかったのはどんなことですか？

齋藤 それは、私たちはお米というのはお店に行けばすぐ買えるものだと思うんですけど、そのお米を作った下でいる農家の方の存在や、米作りへの愛情というのを知ってもらいたいということがまずありました。そういう部分では、子どもたちも小さい田んぼながら1年間米作りに取り組み、鈴木さんのご指導もあってしっかりと学んでくれたと思います。またお米に限らず食べ物というのは、キュウリでも大根でもお肉でもすべてに生産者がいて、大変な労力をかけて作り出しているんだということ。だから私たちは「いただきます」っていいですけども、「食べ物は感謝しながらいただきます」といえないんだよ」という気持ちだと思います。そういうことから「好き嫌いをしない」とか、あるいは「命をいただいているんだ」など多くのことに、今回の米作りが結びついていってくれれば最高だと思っています。

——鈴木さんは生産者として、子どもたちに今回の米作りを通して何を学んでほしかったですか？

思い出がいまでも自分自身の中に残っているんです。だから田んぼを知らない子どもたちにそういう経験をさせてあげたいし、それが思い出の一つになればと思います。そういうのは大人になっても、心のどこかに残るでしょうし、「ああそういうのは小学校の時に田んぼづくりしたっけね」とか話になるでしょう。でも何よりも、子どもたちが目を輝かして楽しそうに田んぼに入っているのを見るだけでも嬉しかったです。また機会があったら何度でもお手伝いしたいと思います。

——学校での米作りの話に始まって、地産地消や食文化の話は尽きませんが、そろそろ話もなくなってきたと思います。続きのお話はまたの機会といたしたいと思えます。齋藤先生並びに鈴木部長さん、本日は本当にありがとうございます。今年もご活躍をお祈りいたします。



# やまがた 彩時季

## ◆山形の初市

©山形市

### 景気回復、商売繁昌を祈り、 市の繁栄を祈念。

山形の初市は、毎年1月10日に行われ、江戸時代から続く伝統行事で、十日町、本町、七日町や旭銀座、一番組商店街など沿道で行なわれる。商業の株を象徴しての「かぶ」、長寿を表す「白ひげ」などの野菜、初あめ、団子木の縁起物や臼、杵、まな板などの木工品、家庭用品などの350軒ほどの露店が立ち並ぶ。





## 激

化する産地間競争を勝ち抜くために、南部営農センター果樹部が「ラ・フランス食味コンテスト」を開催

上山市のJAやまがた宮川支店で11月18日、南部営農センター果樹部主催の「ラ・フランス食味コンテスト」が開催されました。このコンテストはラ・フランスの産地間競争が激化する中、これまで以上に食味を重視した栽培管理と果実品質管理を標準化する目的で、今回初めて開催したものです。審査に先立ち、黒田源果樹部会長は「今までは色や形などが判断基準だったが、ラ・フランスはやはり見た目より味が勝負。みなさんから多くの意見をいただきたい」と挨拶しました。



今回出品されたラ・フランスは前段階の審査を通過した28点で、糖度が15度以上のものばかり。審査には行政関係者や消費者団体関係者など6名があたり、甘味酸味のバランス、芳香、舌触りなどを審査しました。どのラ・フランスもすばらしく、審査は大変難しいものになりましたが、審査の結果、最優秀賞に輝いたのは佐竹秀一さん。特に芳香の評価が高く、多くの審査員が高い点数をつけました。なお今回は、今後のラ・フランス栽培の参考にしよう、青森や新潟など他産地の西洋梨も試食し、その味わいなどについて意見交換を行いました。



## 本

店で「フラワーアレンジメント研修会」開催 50名が参加して、作品作りを楽しみました



JAやまがた本店で11月14日、広域花き部会主催の「フラワーアレンジメント研修会」が開催されました。この研修会は、JAやまがた管内で栽培される花を一般の方たちに広く知ってもらい、その花を使ってフラワーアレンジメントを楽しんでもらおうと始まったもので、今回で4回目。この日は50名という多くの参加者が集まりました。参加者の皆さんは講師の説明を聞いた後、さっそくフラワーアレンジメント作り挑戦。用意されたたくさんのお花を使って、思い思いの作品を作り、完成後は全員の作品をテーブルに並べて投票をし、優秀作品を決定しました。

## 高

校受験を合格リンゴで乗り切って！ 今年も金井中学校の3年生に合格リンゴを贈呈



山形市陣場にある山形市立金井中学校（齋藤一彌校長の3年生118名に、今年も「合格リンゴ」が贈呈されました。この合格リンゴ贈呈は、JAやまがた青年部東金井支部が毎年行っているもので、今年で7回目。リンゴは「合格祈願」の文字入りで、11月29日に亀岡文殊（高皇町）で祈禱を受けてきました。12月4日に行われた贈呈式では、稲村英治支部長が「私たちの心のこもったリンゴで受験に打ち勝ってほしい。リンゴは飾っておかず、食べて皆さんのパワーにしてください」と挨拶。生徒らは「地域の皆さんの期待に応えてがんばります」と力強く決意を述べていました。

## 今

年も山形市にカーブミラー10基を贈呈 これで通算贈呈数は、574基になりました！



去る12月5日、当JAの長澤豊専務とJA山形市の大山幸雄組合長、全共連山形本部普及部担当部長が山形市役所を訪ね、市川昭男市長にカーブミラーの目録を手渡しました。このカーブミラー贈呈は、交通安全対策の一環として交通事故防止に役立ててほしいと昭和48年から行っているもの。今回は10基を贈呈し、これで贈呈したカーブミラーの数は通算574基になりました。この席で長澤豊専務は「山形の交通事故が少しでも減るよう、このカーブミラーを役立ててほしい」と述べ、これに対し市川市長からはお礼の言葉と、今後とも変わらぬ協力の要請がありました。

## 山

辺町の新しい特産品「舞米豚」デビュー！ 飼料用米を食べて育った、山辺産の豚肉



山辺町の中央公民館で12月8日、町が新たな特産品として期待する「舞米豚（まいまいとん）」の発表会が行われました。この「舞米豚」は、山辺町内の養豚会社が、町内で生産された飼料用米を食わせて育てた豚肉で、名称は公募を行って多数の応募の中から選定したものです。ネーミングは「おいしいお米を食べて踊る豚をイメージ」しており、挨拶に立った遠藤直幸山辺町長は「舞米豚の名前のように、この新しい豚が舞って飛躍できるようにがんばりましょう」と氣勢をあげました。舞米豚は山辺町のスーパーの店頭に並んでおり、皆様もぜひ味わってみてください。

## 明

治小学校に地元産ラ・フランスを贈呈 子どもたちから、満面の笑顔とお礼の言葉！



山形市灰塚にある明治小学校（大宮とぎ子校長、児童数214名）で11月19日、地元産ラ・フランスとリンゴの贈呈式が行われました。この企画は明治地区農政対策委員会と明治果樹組合が、子どもたちに地元の農産物のよさを知ってもらおうと行っているものです。贈呈式では小林明治地区農政対策委員長が「明治地区では農家の方がたくさんいるの果物を作っています。地元産の果物を食べて、元気がいっぱいになってください」と挨拶し、2名の児童にラ・フランスとリンゴを手渡しました。児童たちからは、嬉しそうなお礼の言葉をいただきました。

## 関

係者約50名が参加し、青年部収穫感謝祭 荒井幸博さんも参加して講演を行いました



JAやまがた本店で12月1日、関係者約50名が出席して青年部収穫感謝祭が行われました。この席で鈴木伝勇青年部部长は「原油高や金融危機の影響で消費が低迷している。そんな中、国産農産物の需要は拡大してきている。若い力で農業を盛り上げましょう」と挨拶。そして、当JA提供のラジオ番組でもおなじみの荒井幸博氏が講演を行い、「山形は食べ物のレベルが高く、どこをとってもおいしい。若い農家の皆さんに自信を持って農業をやってほしい」と話しました。その後、新米や野菜・果物などの試食会も行われ、参加者全員で収穫を祝いました。



# お花の色彩や形を楽しみながら、自由な心でのびのびと、新年を祝う“お花のディスプレイ”を作ってみましょう！

今年も新しい年がスタートしました。皆様のお宅では、それぞれに門松や正月飾りなどを飾り新年を迎えられたと思いますが、今回は屋内に置いて正月らしさを演出するための飾り＝フラワーディスプレイの作り方を、タケダ花店の横尾さんに教えていただきました。形式にこだわったものではなく、花の色彩や形を楽しみながら自由に正月を表現した、“お花のディスプレイ”。皆さんも自由な心で楽しんでみてください。



(有)タケダ花店  
横尾大輔さん

タケダ花店は開店以来50年を迎え、現在の社長武田浩敬さんで3代目になるという歴史のあるお店。お花はお客様の多様なニーズに応えられるよう、切り花、生け花用の枝物、鉢物など豊富な品揃えで、店内にないものは注文OK。様々な用途に応じたフラワーアレンジにも力を入れている。そんなタケダ花店で横尾大輔さんは、主力スタッフとして活躍。キャリアは今年で10年になる。



- ①材料は左からオアシス、園芸用の小石、竹、松、センリョウ、バラ、トルコギキョウ、スプレー菊、スプレーカーネーション、水仙。他にセロハンやセロテープを用意する。
- ②まずは花を差し込むオアシスを成形する。後で花を差し込む時に立体感が出るように段差をつくり、器と接する面は安定性と保水性を高めるため写真のように広く残す。
- ③成形したオアシスに水を吸わせた後、底部をセロハンで包みセロテープで固定する。あとは写真のように前面を覆うように竹を差し込んでいく。
- ④竹を差し込んだ後は、松、水仙と作品の中心となる背の高いものから位置を決め、その後は色の濃い花、花の大きいものなどからバランスよく位置を決めて差し込んでいく。
- ⑤すべての花の配置が決まったら器に載せ、園芸用の小石を敷き詰める。最後に正月の雰囲気を出す小物などをバランスよく飾ってできあがり。

協力／(有)タケダ花店 山形市あこや町1-2-11 電話023-623-1722 <http://www.takeda-hanaten.co.jp/>

## 地域の話 題

イベントやまつりなど地域の話をお届けします。

山形市 YAMAGATA

### 「第35回 墨華会書道展・教育部書道展」 見事な作品の数々が1300点！



山形市大手町にある山形美術館で12月4日～7日、「第35回 墨華会書道展」が開催されました。この書道展は、山形を本拠地に全国に約3000名の会員を持つ書道愛好団体「墨華会」(原田柳泉会長)が、年に

一度、会員の作品発表の場として開催しているもの。また山形県民芸芸術祭及び山形市芸術祭への参加も兼ねており、毎年たくさんの書道愛好家を楽しみにしている書道展でもあります。

今回の展示会では、会員から出品された作品300点と、小中学生部門の教育部から出品された1000点の計1300点を、山形美術館の1階と2階フロアに展示。訪れた人たちは見事な作品の数々を堪能するように、じっくりと時間をかけて鑑賞して回っていました。また教育部の展示会場では、子どもたちの父兄や親せきの方と思われる方たちが多く訪れ、作品を探して回ったりカメラに収めたりする姿が見られました。

なお墨華会では、書道は年齢を問わず誰もが親しめるため生涯学習として書道を奨励しています。興味のある方は事務局：山形市荒橋町1-18-13、電話023-633-8110までお問い合わせください。

山形市 YAMAGATA

### 「山形美術ことうお宝市」 恒例の骨董市に、掘り出し物を目指し多くのファンが来場！



山形市平久保にある山形ビッグウイングで12月12日～15日、「山形美術ことうお宝市」が開催され、期間中多くの骨董ファンで賑わいました。この「山形美術ことうお宝市」は、福島市で古美術・古民芸の店「時世」を営む鈴木商事(鈴木留吉社長)が、同業の古物商の方たちに声をかけ平成9年ころから開催しているもので、骨董ファンにはおなじみのもの。毎年3月と8月の年2回開催

していますが、今回はたまたま会場に空きがあったこともあり、今年(2008年)3回目の“お宝市”を開催することになりました。

会場には東北各地から集まった古物商の方たちがそれぞれ店を出して、得意の品物を提示。訪れた人たちは会場を回りながら、興味深い品物を見つけると足を止め、慎重に品定めをしたり、店主と値段交渉などをしながらお宝市を楽しんでいました。

展示されている品物は、仏像や掛け軸、絵画、陶磁器、彫刻といったいわゆる骨董品から、テーブルや衣類、タンスといった生活用品まで実に様々。価格も数百万円の値がついたものからひとつ数百円で買えるものまで実に幅広く、骨董ファンでなくても楽しめる内容となっていました。

鈴木商事では今後も山形テレビなどの後援をいただきながら、従来どおり年2回のペースで“お宝市”を開催していくとのこと。来年(2009年)の春は、ぜひ皆さんも足を運んでみてください。

#### 二月のまつりイベント

- 【山形市】
  - 2/4(水)～2/5(木)：山形旧暦初市
  - 2月上旬～4月上旬：やまがた雛のみち「名湯・蔵王温泉に伝わる時代」と蔵と古美術探訪
  - 2月中旬：山寺こけし雪だるま祭り
  - 2月下旬～4月上旬：山寺芭蕉記念館「企画展 お雛さまの歴史と美」

- 【上山市】
  - 2/11(水)：カセ鳥
- 【山辺町】
  - 2月中旬：まんだらの里作谷沢雪の芸術祭
  - 2月中旬～4月上旬：山辺町ふるさと資料館ひな人形展
- 【中山町】
  - 旧暦1/14：だんご木市



## 楯山支店にATM新設 皆さんどうぞご利用ください

12月1日JAやまがた楯山支店で、ATM新設にともないオープニングセレモニーが行われました。ATMは楯山支店の正面入り口に新設しました。是非ご利用ください。



### ●ATM稼働時間

平日 午前9時～午後6時  
土曜 午前9時～正午（1・2月は稼働しません）  
日曜・祝日はお休みとなります

## 今月の表紙



中山町大字長崎  
鈴木四郎さん、美耶子さん  
佐保美さん、瑞保ちゃん11才、  
悠保ちゃん9才、薫さん、淳子さん、  
蒼斗くん3才、楓佳ちゃん1才

鈴木さんでは、稲作6ha、さくらんぼ40a、ラフランス20a、桃10a、野菜30aを栽培。2月～11月は休みも取れない忙しさですが、旅行がお好きとのことで、12～1月の農閑期には、ご夫妻で京都など全国を旅行するのが楽しみだそうです。

## 組合員の皆様へ

### JAやまがた総合車両センター と全農ライフサポート山形の 業務提携について

組合員の皆様の日頃のご愛顧、ご用心心より感謝致しております。この度、平成21年3月1日よりJAやまがた総合車両センターと全農ライフサポート山形が、車検・整備事業の業務提携を行うこととなりました。これにより、組合員の皆様により安全で安心できる体制が整い、一層のサービス向上が可能となります。より充実した新しい環境でお待ちいたしておりますので、皆様のお車の整備点検は是非お任せください。スタッフ一同組合員の皆様のご用命をお待ちいたしております。



## 地区別座談会が開催されます!

昨年度の地区別座談会にはたくさんの方々からご出席をいただき誠にありがとうございました。特に多かったご意見を掲載・報告させていただきます。

- Q 地産地消の中で、南館店と鈴川店の直売所が人気を集めていると聞いていますが、入会の方法を伺いたい。
- A 入会の申し込みは直売所各店舗に申し込み下さい。入会金は1,000円、年会費として5,000円が必要です。
- Q グリーン店舗のポイント制導入の内容はどのようなものか伺いたい。
- A ポイントカードについては、利用者へのメリットとして検討し、平成20年4月より新レジ「ポス」導入と同時にポイント制を開始いたしました。  
お買い上げ金額に応じて（肥料・農薬・温床資材・種子・生産資材・食料品・衣料品をお買い上げ）1,000円ごとに10ポイントを加算し、次のお買い上げから1ポイント1円にてご利用いただけます。（特売品・予約単価供給品等一部対象外商品も有ります）  
JAやまがた各グリーンをご利用になられる方にポイントカードを発行し、ご利用はJAやまがた組合員本人もしくはご家族の方となります。  
グリーン店舗に在庫が無く、配達依頼を受けた場合はポイントが加算できるよう対応いたします。また現在の所、有効期限は設けておりません。
- Q 農機、車両センターの業務改善について伺いたい。
- A 農機センターの業務改善については、専門委員会等で検討いただいております。体制整備を図りながら、組合員サービスの向上に努めますのでご理解いただきますようお願いいたします。  
集約については、第三次刷新計画から継続検討で行動総合5ヶ年計画にも出ておりますが、集落営農担い手対策の状況を見ながら対応してまいります。  
車両センターについては、整備器具の老朽化と整備基準の改正に伴う器具の導入等もあり、今後利用者へのより高いサービスを継続するため、平成21年3月1日より全農ライフサポート山形と車検整備事業の業務提携をいたします。
- Q 支店及び施設の統廃合の考え方を伺いたい。
- A 世界的な経済環境の中で、組合員に対して恒常的なサービスを提供するためには、支店及び施設の統廃合を含めた経営の合理化を進めなければなりません。地域性等を勘案し検討してまいります。
- Q LPガスを何時間くらい連続使用するとガスセンターから電話が来るのか伺いたい。
- A お客様の保安、安全確保のための保安サービスを電話回線を利用し行っており、宅内のガス配管からのガス漏洩、ガス器具の火の消し忘れを防止するための対策です。連続使用は器具の種類によって時間が異なりますので、一概には言えませんが、安全確保が最優先となります。
- Q 葬儀等の休日連絡体制について伺いたい。
- A 葬儀受付については年中無休ですから、連絡は通常連絡先へ(023-647-5969)連絡下さい。昼夜問わず受付させていただきます。

## パズル? 頭の体操 12月号の答えを発表!

12月号のクイズの答えは「ケイトダム」でした。当選者(3名へギフト券1,000円分)は発送をもってかえさせていただきます。

### 【読者の声】

◇12月号新探職員「畑の学校」の記事を拝見しました。写真にはこれからの「JAやまがた」の将来を担う新人さんのがんばる姿がありました。山形の農業をもつ

ともっと盛り上げてください。

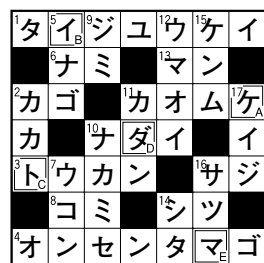
(中山町長崎 Mさん)

◇12月表紙で、見事な干柿の前での家族写真、とてもすばらしく感激しました。また、中のページにある大根干しの写真も素晴らしいかったです。

(上市市菖蒲 Mさん)

◇JAやまがた農産物宣伝コーナー「畑のはたご」という名前がステキです。よくこの名前をつけたと感心します。

(中山町 Iさん)



12月号の回答 A B C D E  
ケイトダム

## パズルの 頭の体操?

### 問題

二重マスの文字をA～Eの順に並べてできる言葉は何でしょうか?

### 応募方法

左の記入例を参考に官製はがきでご応募下さい。正解者の中から抽選で3名の方にギフト券(1,000円分)をプレゼント。締め切りは、17日(当日消印有効)です。

- ① 答え
- ② 当紙へのご意見やご要望、読者の声への一言
- ③ 住所・氏名  
電話番号  
(当紙の編集以外には使用いたしません)

990-8535  
山形市旅籠町 一丁目12-35  
JAやまがた  
広報クイズ係 行

どなたでも応募下さい。クイズはもちろん「読者の声」も募集しています。

### 「読者の声」あて先

住所  
〒990-8535  
山形市旅籠町一丁目12-35  
電話 023-641-1213  
FAX 023-631-4714  
Eメール  
soumu@jyamagata.or.jp

私たちJAやまがたは、「地域とグッドコミュニケーション」を心がけ皆様の声を大切にしております。今年度もたくさんの方々のご意見をお聞かせ下さい。

### ●報告事項

- ・企画管理部
- 1. 組合員（出資金）加入調査について
- 2. JAバンク基本方針に基づく「経営状況に関する事項の報告」について
- 3. (社)山形市農業振興公社への出資額の資産性確認について
- ・営農経済部
- 1. 青果物販売状況について
- 2. 平成20年産米集荷状況について
- 3. ダンボール期中値上げに関わる価格対策について
- ・その他
- 1. 平成20年10月末事業実績について

第11回  
11月27日  
開催

### ●協議事項

- 第1号議案 高額・員外貸出金および農協法第35条の2の第2項「役員忠実義務」にかかる貸付について
- 第2号議案 国債・投信窓販に係る規程類の改正について
- 第3号議案 公募入札国債取扱中止に伴う金融商品取引法上の規程類等の改正について
- 第4号議案 平成20年8月期半期開示について
- 第5号議案 通所介護施設計画における建築場所選定について
- 第6号議案 車両整備事業の業務移管について
- 第7号議案 「就業規則」ならびに「給与規程」の一部変更について  
その他

理事会  
だより